

長泉麗峰山の会・山行報告書	文・写真 後藤
山行番. NO. 2030	
日 時 2024年02月14日(水)晴・強風	
山 域 浅間山・剣ヶ峰(2281m)ヒサシゴー口尾根	
コース 浅間温泉 6:00-尾根取り付き 6:30-標高点・1924m・2101m-剣ヶ峰 10:36~11:00(昼食) 浅間温泉 13:36-浅間温泉-長泉町 20:30	
標高差 浅間温泉約1410m~剣ヶ峰2281m=約871m	
データ 長泉町~浅間温泉=約459km、有料道路(平日)往復6600円、温泉=800円	
冬季限定・圧倒的存在の浅間山	
ど〜が〜 https://susono-reihou.babyblue.jp/00-40mp4.mp4	
参加者 後藤、加藤=2名	

今冬、雪山は4回目。高齢で日帰りが難しいので前泊が多い。ところが、前泊も良く眠れない。いわく、「枕が変わると眠れない」というが、「だったら、枕を持参したら」と仰る。そういうものではない。

「枕が変わる」ことは、つまり「環境が変わる」で、「単純に枕を持参しても、ダメなのだ」若いころは、イッパイやって、バタンキューだった。

ところが、微妙な布団の寝心地・廊下の軋み・石油ストーブの騒音、などが気になるのだ。結局、「高齢者はしゃ〜ない」で片づけられそう。遅しくなければ、「登山は出来ない」のだ。



浅間温泉・鳥居(下山後、撮影)



浅間温泉(下山後)

まだ暗い中、大きな鳥居を潜って、浅間温泉から出発。多くの方は、連合赤軍の「浅間山荘事件」と「浅間温泉」を混同しているが、浅間山荘は、全く別の場所。ま、紛らわしいは、紛らわしい。

悪天候方向だが、天気は良く下部は風がなかった。雪量もまあまあ。林道を進み、赤布がある、尾根取り付きでアイゼンを装着。

尾根はやや藪っぽかった。これでは、夏はイヤな尾根だ。最初からモーレツな上り。荷物は重く、足も重たく、前述の寝不足が応える。

ともかく、体調は最悪だが、上を見ないで頑張る。「イチ・ニイ、レイ、ホー」の調子で上る。ようやく、標高点・1924mに達した。といっても、顕著なピークがある訳ではないので、気持ちの切り替えにはならない。



頭上に漸く、牙山の端が見え、左手に「トーミの頭」が現われた。浅間山は、記録を紐解いたら、何と1989年10月に上っていた。当時、浅間山(2463m)まで上れたとあるが、この標高は、何処か不明。既に亡くなった、毛利・杉澤氏も一緒だった。

なかなか、浅間山が見えなかったが、ようやく頭が見えた。そして、山頂部に達すると、全容が伺えた。計画では、山頂から「天狗の露地」に下って、周回予定だった。しかし、山頂北は断崖で、とても下れる状態ではなかった。

ここは、潔く周回は諦め、往路を戻ることにした。腹はペコペコ。少し下って風を避け空腹を満たした。寒いし下りも厳しいので、beerは断念。

天気はまだ持っていた。ただ、トーミの頭に「巻雲が漂い始めた」。腰を上げて下る。時々、ズボッと落とし穴にハマる。午後は、雪が緩むからだ。

下から今日唯一の登山者に会った。単独でよく上ると思った。年配の方だった。聞けば、高崎から今朝来たという。後日、ショートメールをいただいた。お名前は、上野庄市さんで72歳だった。私の年齢を聞き驚いていた。



霧が晴れて山頂
火口の全容が：

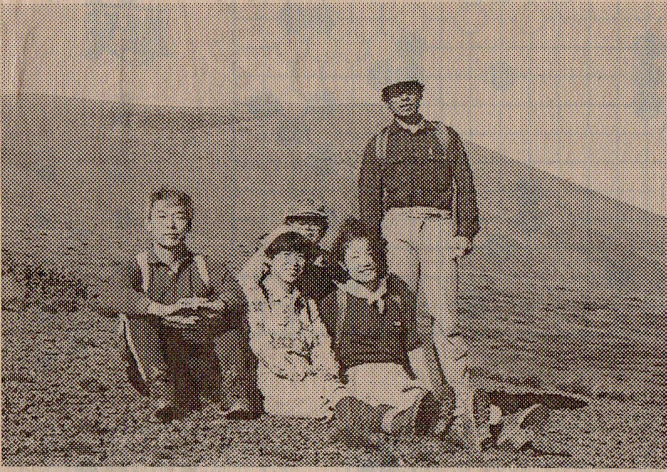
◆長野・浅間山

▽10月7、9日▽静岡・三
島勤労者山岳会―毛利哲也全
志、後藤隆徳、杉沢康秀
、田中裕吉、山口美
恵子、水口和子

7日、雨のなか2台の車で
出発し、22時半車坂峠へ。こ
こへ1台をデポし、峰の茶屋
へ向かう。東大火山観測所裏
にテントを張る。

8日、6時40分、抜けるよ
ろな青空とツタウルシの見事

浅間山の中腹に憩う



な紅葉に誘われるように、観
測所裏の登山道を登りたす。
急斜面の砂れきの道だが、そ
れほど歩きにくはない。

振り返ると、はるか彼方に
日光白根山、皇海山、武尊
山、赤城山がはつきりと確認
できる。気温は低く、風が冷
たい。山頂からは盛んに蒸気
が立ち上がっている。山肌は
へばりつく枯れたオヤマソバ
の幾何学模様が面白い。ひと
ふんばりで浅間山(二四六三

に立つ。
霧が出てきた。記念撮影の
あと、毛利は茶屋から車を回
収するため、きびすを返し、
下っていく。われわれも山頂
をあとにするが、その瞬間、
霧がサーッとほれて、山頂火
口の全容が見渡せ、思わず息
をのむ。そこには奈落の底か
ら荒々しく垂直に切り立った
岩壁がそびえ、いたるところ
から蒸気が立ち上がる地獄
のような光景があったから
だ。

ここから湯の平高原へ下っ
ていくと、カラマツとナナカ
マドなどの紅葉が広がって
いく。足もとにはクロメノキ
(アサマブドウ)、コケモ
モ、シラタマノキが豊かに実
を結んでいる。なんと素晴ら
しい景色だろうか。

Jバンドを登り、黒斑山へ
向かう。右手にあす登る四阿
(あずまや)山がすそ野を広
げている。多くの登山者に会
う。車坂峠から蛇骨岳の回遊
コースを楽しんでいるよう
だ。寒いと思っていれば、雪
が降ってきた。

黒斑山を下るころには雪が
激しさを増したのでヤッケを
着る。だれかが向こうでコ
ールしている。先行者かなど、
目をこらすと、毛利が迎えに
きてくれたのだ。車坂峠から
鹿沢温泉へ向かい、冷えた
体を温泉であたためた。い
い山だった。(後藤隆徳)

古の記録（浅間山の標高が分からない）



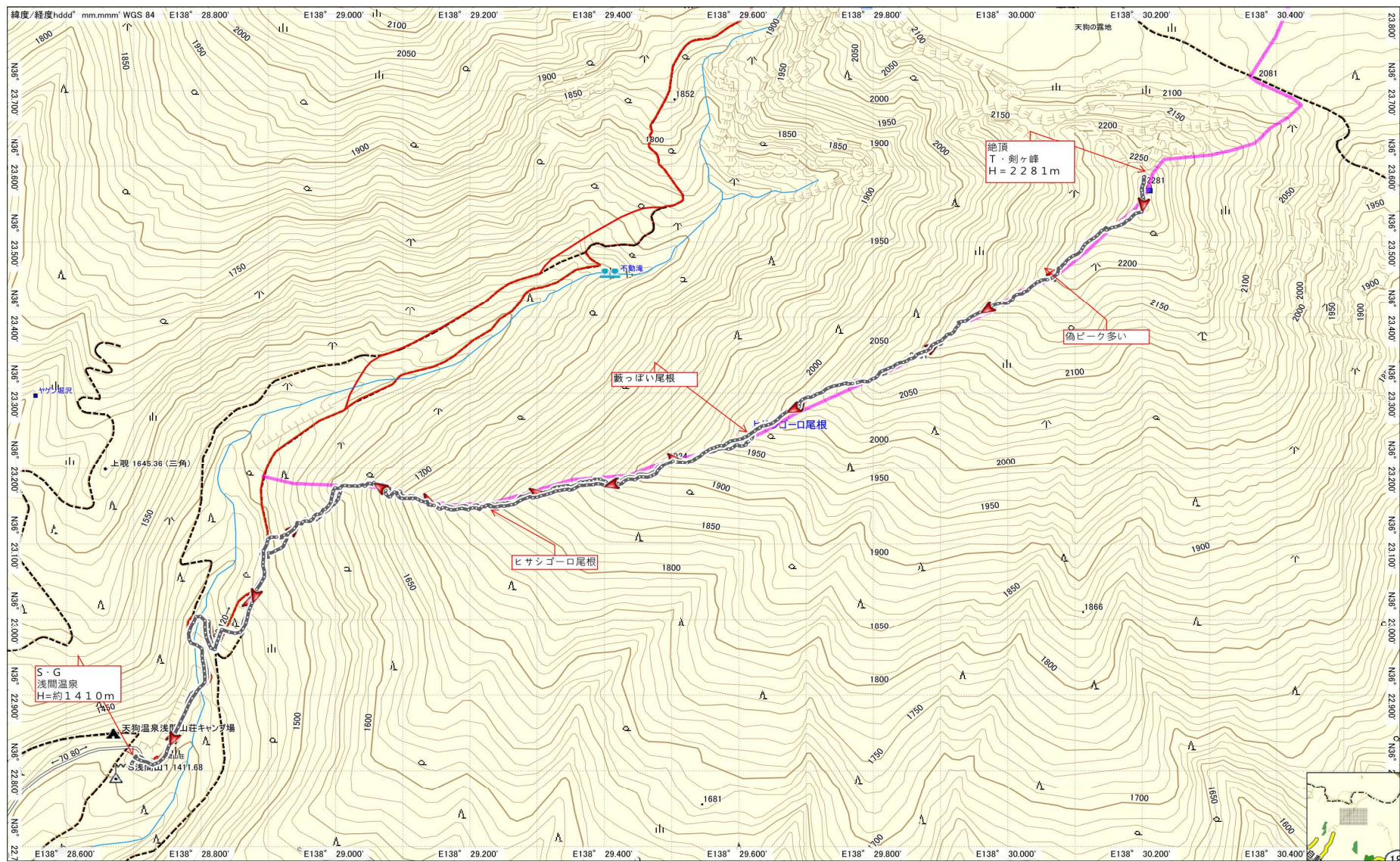
上野さん



浅間温泉の温泉・ソバ・熱燗

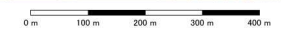
浅間温泉に入った。赤褐色の温泉だった。熱からず温からず。丁度良かった。入浴後は、「beer・熱燗・ソバ」だった。

火照った体に、冷たいソバが美味しかった。それに熱燗。これは堪らない。今回は、懸案だった、「初見の浅間山・剣ヶ峰」に満足だった。



Japan Topo 10M Plus V3
 Garmin/Mapbox Co., Ltd 2014
 Garmin Corporation 1985-2014

2024/02/15 13:46:34



GARMIN